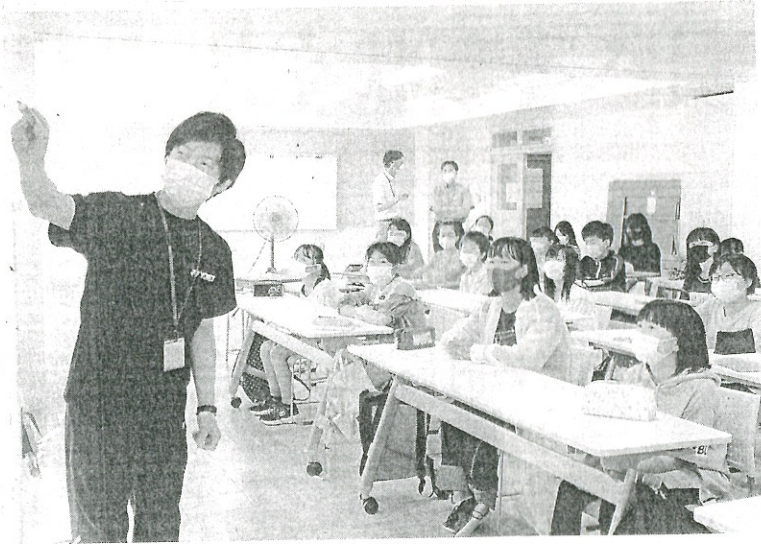


# 学校の垣根越え指導

## 小中連携による夏休み学習会

東中校区

苦小牧市内の小中学校の中で小中連携のモデル推進校区となっている苦小牧東中学校区（東中、苦東小、若草小、苦西小）は、連携活動の一環となる夏休み中の学習会を2年ぶりに再開し、7月27、29日に苦東小と東中で実施した。同月28日には、来春、東中に入学する小学校3校の6年生46人が「初登校」し、中学校教員の授業を受けた。



中学校教員から勉強を学ぶ児童たち



中学生（左）から勉強を教わる児童

東中校区では2019年から、中学校教員が授業をしたり、中学生が勉強をサポートしたり、学校の垣根を越えた学びの機会を小学6年生のために設けている。

中学校の授業は小学校より時間が5分長く、内容も

難しくなるため、入学後、スムーズに学校生活になじめるよう一足早く様子を知らせてもらうのが狙い。ただ、昨年は新型コロナウイルス流行の影響で中止していた。

28日は、6年生が中学校の教員や外国語指導助手（ALT）から、中学で学ぶ数学や英語を学んだ。数学では、東中の内山泰弘教諭（39）が、1年生の初めに学ぶ負の数の考え方を教えた。児童は違う小学校同士で隣り合うように席

に着き、解き方を相談しながら、問題に取り組んだ。ここで自己肯定感が高まる効果があったという。

内山教諭は、中学での勉強内容を今から知ることで、「進学後の理解が高まり、良いスタートを切りやすくなるのでは」と期待。若草小の須藤柚奈さん（12）は「楽しそうな先生が中学にいられた。勉強は難しいけれど、頑張りたい」と向き合っていた。

29日は、苦東小が希望する全ての児童を対象にした勉強会を校内で開き、学習補助員として同小を卒業した東中生徒を招いた。小学生は中学生に親近感を持

ち、中学生は頼りにされることで自己肯定感が高まる効果があったという。

29日は、東中に生徒の母校となる苦東小、若草小の教員が来校し、小学時代のつまづきが影響する分数や小数の四則計算を指導。学び直しの場を生徒たちに設けた。

東中の五十嵐昭広校長はさまざまな取り組みについて「児童のギャップを軽減するだけでなく、各教員が児童生徒の反応を見ながら、各校で身に付けさせるべき力を見直す機会にもなっている」と話している。



## 教諭が生徒役で模擬授業

苫東中学校区で道徳授業研修会



模擬授業を展開する喜田さん

苫小牧東中学校区学校教開いた。東中学校区（東中、育力向上エリア会議の道徳 東小、若草小）の教員50人、教育部会はこのほど、同中が参加し、北海道道徳教育学校で道徳授業の研修会を 研究会の研究副部長で、札

幌市立北野中学校の教諭喜田貴美枝さんの模擬授業と講義から授業の展開方法などを学んだ。

同会議は苫小牧市内の各中学校区内に設置され、小中学校の連携を図る目的で活動している。東中学校区は2委員会と道徳部会を含む4部会で構成されている。

喜田さんは、生徒役になった教諭たちに向けて模擬授業を行った。最初に「友達とは？」と投げ掛けると、「一緒にいて楽しい人」などの声が上がった。その後、

2人の鬼が登場する教材の物語「泣いた赤鬼」を読み、「どちらの鬼に共感できる？」「この2人は友達と言える？」と発問して考えさせた。その後、再び「友達とは？」と問い掛けると、「互いを思い合う人」などの意見があり、生徒たちが深く考える授業を繰り広げた。その後、「なぜ？」を重視した生徒への発問の仕方について講義した。

五十嵐昭広校長は「新型コロナウイルス禍であり小中連携事業ができていなかったが、他の校区にはない取り組みを実施できてよかった」と話した。

苫小牧東中の授業で命の大切さを伝えた吉裕子さん



## 「望まぬ妊娠防いで」

### 苫小牧東中 助産師が性の授業

命の尊さを学んでもらおうと、苫小牧市立苫小牧東中で15日、性教育をテーマにした授業が行われた。「札幌相談専門助産院あさ」の代表助産師吉裕子さんが、3年生66人に思春期の体の変化などについて語った。

市主催。若者に性の正しい知識を伝え、望まぬ妊娠を減らすことが目的。市の取り組みとして市内の中学校で外部講師を招き、性の授業を行うのは初めて。吉さんは授業の冒頭、出産の様子を収めた動画を流し、命の大切さを伝えた。

「予定しない妊娠を避けるため、嫌なことは嫌だと言うことが大切」とも強調した。加賀谷希颯さん(14)は「学校の性の授業はオブラートに包まれた表現。今日は具体的な話が出てきて驚いたけどためになった」と話した。

市健康支援課では性に関する悩みを受け付けている。問い合わせは☎0144・32・6411へ。

(仲沢大夢)



2021 衆院選  
地域から問う 5



苫小牧東中学校のタブレットを使った授業

苫小牧東中学校2年生の理科の授業。タブレット端末のAI（人工知能）型ドリル教材で、生徒は基礎から応用まで三つのレベルをそれぞれ選択し、習熟度に合った問題を解いたり、単元で学ん

だことを入力したりしている。櫻井秀さん（14）は「タイピングは早い方だと思っ。文字をすぐに消せるし、操作しているレベルをそれぞれ選択し、習熟度に合った問題を解いたり、単元で学ん

橋本杏里さん（14）も「調べるながら操作できるのが

魅力」と話す。

◇

国のGIGA（ギガ）スクール構想の一環で2020年度、市内の全小中学校に児童生徒が1人1台使えるタブレット端末が整備された。今年度は本格的に活用を始めるが、「先生たちは授業

タブレット元年だ。同中学校で理科を教える北田伸也主幹教諭（47）は、タブレット使用で「子どもたちがより意欲的になった雰囲気だ」と説明する。積極的な利用へ現場の機運も高まりつつあるが、「先生たちは授業

ネットですんだりと積極的に活用方法を探る。しかし、活用技術の習得は教員自身の努力による部分が大きく、教職員間で習熟度に差が出る懸念もある。市教育委員会では専門的な知識・技術を持つ人を各校に派遣する

オンライン上での学習を試行する予定だ。全国的には、希望する児童生徒が自宅でオンライン授業を受けられる「選択登校制」を取り入れる自治体や、オンライン授業に支障が出ない通信環境の整備が進み、苫

# 活用始まる教育現場

## オンライン学習の環境整備進む

### デジタル化

に加え部活指導もあり、一斉に研修する時間はなかなか持ちにくい」と明かす。

苫小牧美園小学校、教務主任の佐藤修平教諭（39）は「タブレットありきの授業ではなく、タブレットを理解促進の手段の一つと捉えれば、やり方は無限に広がる」と前向きに受け止め、市教委による研修を受けたり、先進事例をインター

「ヘルプデスク」を運用しているが、さらにきめ細かな支援体制は不可欠だ。佐藤教諭は「支援職員などが各校にいれば、その先生を中心にスキルが広がっていくと思う」と提案する。

◇

新型コロナウイルス感染症拡大により、さまざまな分野で進むデジタル化。昨春、全校が臨時休業となった経験も踏まえ、市教委は10月上旬から来年3月中旬まで、家庭への端末持ち帰りやオンライン上での学習を試行する予定だ。

全国的には、希望する児童生徒が自宅でオンライン授業を受けられる「選択登校制」を取り入れる自治体や、オンライン授業に支障が出ない通信環境の整備が進み、苫

「ヘルプデスク」を運用しているが、さらにきめ細かな支援体制は不可欠だ。佐藤教諭は「支援職員などが各校にいれば、その先生を中心にスキルが広がっていくと思う」と提案する。

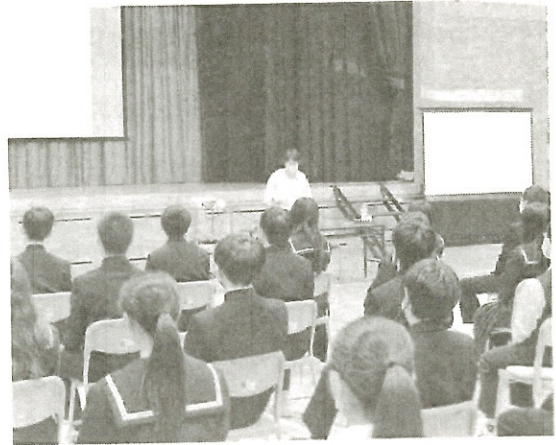
◇

新型コロナウイルス感染症拡大により、さまざまな分野で進むデジタル化。昨春、全校が臨時休業となった経験も踏まえ、市教委は10月上旬から来年3月中旬まで、家庭への端末持ち帰りやオンライン上での学習を試行する予定だ。

全国的には、希望する児童生徒が自宅でオンライン授業を受けられる「選択登校制」を取り入れる自治体や、オンライン授業に支障が出ない通信環境の整備が進み、苫



# 性との向き合い方学ぶ 中学生向け性教育講演会



性について学ぶ生徒たち

中学生に性の正しい知識を伝える、苫小牧市の性教育講演会がこのほど、苫小牧東中学校で開かれた。望まない妊娠や性感染症に苦しむ若者を少しでも減らしたいと初めて実施。札幌相談専門助産院あさ（札幌市）の代表助産師吉裕子さんが、3年生66人に命の尊さと性との向き合い方について語った。

講演会では性交や受精の仕組み、性被害から身を守るために大切なソーシャルネットワーキングサービス（SNS）の知識、高校生が感じがちな性の悩みなどを取り上げた。

吉さんは男女共に性器の外観などに悩む傾向にある

ことに触れて「機能上は問題のないことが多い」と伝え、「いずれ命につながるかもしれない場所であることを意識し、丁寧に扱うよう心掛けてほしい」と訴えた。

好きな人同士や親しい者同士であっても、身体に触れる際には相手の気持ちを確認することが重要なことも強調。望まない妊娠を防ぎ、好きな相手と幸せな関係を築くためにも「性的欲求を自分でコントロールし、嫌なときはNO（ノー）と言う勇氣を持って」と呼び掛けた。

授業を受けた加賀谷希颯（ののか）さん（14）は「学校の授業はオブラートに包

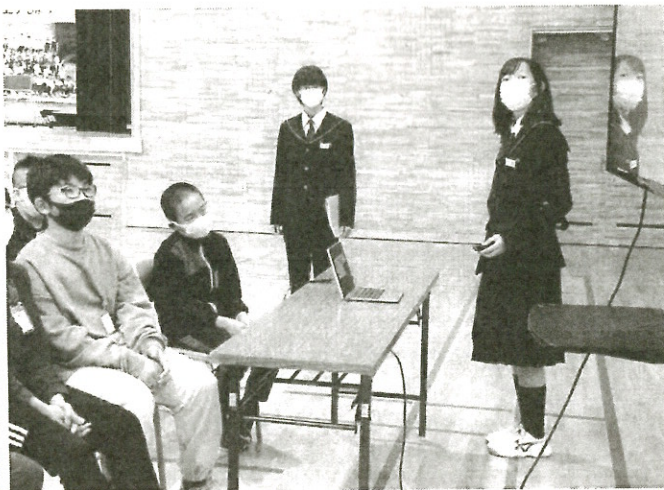
んだ表現だったので、性的話は隠さなければいけないものだと思っていたがもっと（話題に）出していいことを学んだ」と話していた。この日は開成中学校でも全校生徒約110人を対象

に、同内容の講演会を開催。市健康支援課は「今年度はモデル校2校で行ったが、来年度以降は実施校を増やし、生徒が性について正しく学べる機会を増やしたい」と語った。

# 一足早く中学生気分 小学6年生90人体験入学

苫小牧東中

苫小牧東中学校(五十嵐昭広校長)は10月29日、校区の苫小牧東小学校と若草小学校の6年生約90人を迎え、市内の中学校では唯一となる1日体験入学を行った。半年後に同中学校に進学する児童たちは、小学校より5分長い1コマ50分授業を体感したほか、中学生と交流し、一足早く中学校生活を体験した。



は、市内で小中連携のモデルとして、一日を通して体験入学学校生活への質問を生徒に答えてもらった。

中学生の発表を聞く児童たち(左)

ル推進校区になってい同中学校区のみの実施。児童たちは授業体験や学習成果発表の見学をし、中

学習成果発表の見学は、年齢の近い先輩の姿に小学生が憧れを持ち、自身の進学後をイメージしてもらったのが狙い。児童の前で、主張発表大会や英語暗唱大会で成績優秀者選ばれた1年生がスピーチし、授業で調査研究した内容を披露した。

中学校生活への質問は事前に児童から集め、生徒たちが答えた。「他の小学校から来た子となじめるか不安」という問いには、生徒会執行部が「違う出身校でも友達になれている。入学後に席の近くにいる人に勇気を出して話し掛けてみて」とアドバイスしていた。生徒会と各児童会が、それぞれいじめ撲滅に向けた取り組みを紹介し合う場面もあった。

苫東小の高島瑠音さん

(11)は「校舎が近くても、中学校については分からないうことがあった。話を聞いて安心した」と入学を楽しみにしていた。  
五十嵐校長は「中学生の姿を見ることが良い刺激になり、安心して入学してもらえたらうれしい」と目を細めていた。



# 苦東小4年生に授業

## 小中連携の一環で乗り入れ

苦東中教諭

苦小牧東中学校（五十嵐昭広校長）の教諭が、併設される苦小牧東小学校（柴田知己校長）の児童に指導をする乗り入れ授業が5日、同小学校で行われた。4年生31人が、慣用句を学ぶ国語の授業を体験した。

併設校舎を生かした小中連携教育の一環。苦東小4年1組担任の松井由佳教諭（46）と、苦東中で国語を担当する吉岡千紗都教諭（27）が、導入や展開の方法、内容を検討して実施した。

授業では吉岡教諭が「羽をのばす」「油を売る」とい

つた慣用句について意味や由来を説明。その後「うり二つ」「メスを入れる」「頭をひねる」などの複数の慣用句を提示し、児童らに仲間分けをしてもらうグループワークを実施した。最後はグループ同士で見を共有し、答え合わせをした。湊柚希君（10）は「分

かりやすく説明してくれたので、授業を楽しむことができた」と話していた。

苦東中の五十嵐校長は「小学生と中学生では発達段階が違うので、ノートに記入する時間や、やるべきことの指示が必要になるなど授業の進め方が異なる。教師には、今回の小学生との交流を今後の授業に生かしてほしい」と話していた。



4年生に授業をする東中の吉岡教諭（左）



# 授業評価タブレットで

## ICT活用いち早く改善

苫小牧東中

苫小牧東中学校（五十嵐昭広校長）は11月29日、全校生徒約270人を対象とした9教科の授業評価を初めてタブレット端末を使って行った。これまでは紙で調査し、集計は教員でしてきたが、ICT（情報通信技術）の活用で結果が迅速に分かり、改善策に着手する時間を早められる。



タブレット上で設問に答える生徒ら

同評価は、生徒たちが授業内容をどう受け止めているのかを把握し、より良い授業につなげるために、各校が独自に行っている。結果や改良に向けた方向性は、生徒や保護者にも周知している。

集計・分析はこれまで、教員が通常の授業や部活動の指導をしている中で行うため、2学期に行った評価の結果がまとまるのは冬休み明けになっていた。ICTを利用すると1週間程度でまとまることから、五十嵐校長は「集計作業時間が減り、教員の働き方改革にもつながる。授業評価は今まで年1回だったが、学期末ごとなど、もっと短い期間でもできるように」と説明する。

生徒たちは、教員が事前に作っておいた「授業の中で『ねらい・課題』を提示

している」話し合ったり、発表をしたりする機会がある」などの設問について、入力欄の「当てはまる」から「当てはまらない」までの5段階のどれになるか、機器を操作して9教科分を15分間で回答した。

1年生の教室では、それぞれタブレットを開いて操作し、菅原京香さん（13）

は「家でもスマートフォンを使っているから（機器の）使い方は慣れている。紙のアンケートに答えるよりも楽に感じる」と作業をスムーズに進めていた。

同校は、11月中旬に実施した保護者対象の学校評価アンケートもスマホで回答できるようにした。すると、回答率が例年より10%ほど向上し、80%になったという。五十嵐校長は「授業や学校改善にいち早く取り組みめるようになる意義は大きい。今学期から、早速動き出したい」と話している。



# 歌と演奏をプレゼント

## 苦東中のお兄さんお姉さんへ

苦東小児童

苦小牧東小学校（柴田知巳校長）の5年1組の児童25人は8日、同校併設の苦小牧東中学校（五十嵐昭広校長）の2年2組の生徒29人になりコーダー演奏と合唱を発表した。併設校舎を生かした苦小牧型小中連携推進事業の一環。

発表のきっかけは、5年 学校の学校祭で2年2組が1組の児童らが10月に同中 発表した合唱「大切なもの」



リコーダー演奏や合唱を披露した苦東小5年1組の児童

に感銘を受け、生徒らにこの歌の指導を依頼したと。12月4日の学習発表会

で発表を終えたことから、感謝を込めて披露することにした。

児童らは同中学校の音楽室で、学習発表会で披露したリコーダー曲「星の笛」と合唱曲「大切なもの」を発表。同中2年2組の学級委員長、横田あゆりさん（14）は「心のこもった演

奏と歌がうれしかった」と喜び、返礼として29人全員で合唱曲「心の瞳」を歌った。

歌の発表を終えた苦東小の長浜有汰君（11）は「努力の成果を中学生の皆さんに披露できて良かった」と満足そうな笑顔を見せた。